

附属小学校における教育実習改革[†]

浅川 邦彦*・林田 浩二**

宇都宮大学教育学部*

宇都宮大学教育学部附属小学校**

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第4号 別刷

2018年2月28日

附属小学校における教育実習改革[†]

浅川 邦彦*・林田 浩二**

宇都宮大学教育学部*

宇都宮大学教育学部附属小学校**

附属小学校は多くの実習生を受け入れる教育実習校として、教師としての資質・能力の基礎を育成する観点から、実習生への指導内容や方法の見直しを常に行っている。平成27年度からは、学習指導案作成や授業観察、勤務の実態と課題を踏まえ、実践を通して教職志向を高めることを重視した更なる改革に取り組んだ。その内容と成果を報告する。

キーワード：教育実習、教職志向、学習指導案、授業観察

1. 改革前の教育実習

(1) 学習指導案作成の実態と課題

学生一人あたり11～12時間の授業実践を行い、1時間の授業のために3日間の事前指導が行われた。そのスケジュールは以下の通りである。

【授業3日前】授業内容の検討

【授業2日前】指導案（1案）の提出・検討

【授業前日】修正した指導案（2案）の提出・検討

授業当日は再修正した指導案（3案）を提出し、授業実践を行った。実習生は3週間の実習期間中に、のべ30枚以上の指導案を作成・修正しなければならなかった。指導教員から示される指導資料は必要最低限であり、既成の指導案を参照することも認められなかった。知識も情報もない中での指導案作成に苦しみ、子どもと積極的に関わろうとする意欲を失い、教師としてのやりがいを見出せぬまま実習を終えてしまう実習生も少なくなかった。

(2) 授業観察の実態と課題

附属小教員の授業の観察は実習2日目の5時間と実習8～9日目の1時間、実習生の授業の観察は実習3日目から毎日3～5時間あった。観察内容は各自のノートに記録するが、実習生の授業の観察のうち3時間分は、事前に各自が設定したテーマに基づいて観察し、「授業の流れ」「部分考察」「全体考察」を整理した観察記録（B1）を指導教員に提出した。実際に実習生が作成した観察記録（B1）を図1に示す。

図1 観察記録（B1）

[†] Kunihiko ASAKAWA* and Koji HAYASHIDA**:
Reform of Teaching Practice at The
Elementary School Attached to the School of
Education, Utsunomiya University

Keywords: Teaching Practice, Intention to be
a Teacher, learning guidance plan, Class
Observation

* School of Education, Utsunomiya University

** Elementary School Attached to the School of
Education, Utsunomiya University

(連絡先: u-asakawak@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

実習生は授業観察を通して、授業改善の視点や具体的な改善策が得られることを期待している。それらの必要感を実習2週目から3週目にかけて最も高まってくると思われるが、その時期に附属小教員の授業の観察は設定されていなかった。観察の観点も十分指導されていたとは言えず、実習2週目は授業準備の時間を削ってまで観察記録（B1）を書かねばならない状態だった。

(3) 勤務の実態と課題

教育実習の心構えや規則は「教育実習要覧」に記載されており、それらの説明が事前指導（4）（教生オリエンテーション）と実習1日目の全体指導で行われた。その際、出勤時刻や指導案などの提出時刻を厳守すること、指導案作成において他者のアイデアの引用、転載、複製を厳に慎むことなどが、誠実な実習態度として示された。その他、服装や言葉遣いなどについても細かい指示があった。違反や不正行為は教育実習主任や副校長からの直接指導の対象となり、評価にも影響があることが付け加えられた。

教育実習の心構えや規則は、教師として、社会人としての資質を身に付けることを目的として設定されているが、実習生が納得して心構えを大切に、規則を守ることができるようにすることまではできていなかった。今の時代に則した心構えや規則であるか見直すことも必要になっていた。

2. 先行的に取り組んだ改革

(1) 授業観察記録用紙の作成

本格的な教育実習改革は平成29年度に実施されたが、その方向性についての議論は平成27年度から始まり、平成28年度は具体的な改革内容の検討と、先行的に実施できる改革が行われた。一つ目が観察記録の内容と方法の見直しである。

宇都宮大学教育学部を卒業し附属小学校に講師として勤める元実習生に、教育実習での課題を聞き取ったところ、授業観察の目的が曖昧で、多くの実習生が何をどのように記録するべきか迷っていたという意見があった。そこで、授業改善の視点や具体的な改善策を見出すという授業観察の目的に沿った観察記録用紙を作成した。作成した観察記録用紙を図2に示す。指導案と同様の観点で記録するようにしたことで、学習活動や支援などを指導案として表現する時のポイントを押さえられるようにした。

(2) 朝の打合せの活用

先行的な改革の二つ目は、朝の打合せの内容と方法の見直しである。

実習生の出勤時刻は8:00であり、同時刻から10分間の朝の打合せがある。改革前は実習の心構えの確認や事務連絡、勤務上の注意など、反省を促すことが中心の内容であった。改革後の朝の打合せは、授業実践や子どもと関わることに對する実習生の意欲を高めることをねらいとした内容にした。以下は平成28年度の朝の打合わせの内容である。指導の効率化を図るため、教育実習主任の講話に加えて自作プレゼンテーション資料も活用した。

【前日の振り返り】 前日の実習の様子を撮影した写真を使った2分間程度のスライド動画を視聴する。

【今日の一言】 国内外の偉人が残した言葉から選んだ実習の心構えと関わりが深い言葉の紹介を聞く。

【当番日誌の紹介】 実習生が書いた前日の振り返り記録を紹介し、成果と課題を共有する。

【事務連絡】 本日提出する指導案や観察記録、本日のスケジュールなどを確認する。

3. 教育実習改革の方向性

(1) 教育実習のねらいの共有

教育実習改革を推進するにあたり、実習生が教職志向を高めているか、主体的な課題解決に取り組んでいるか、基礎的な指導力をつけているかなど、課題として見えてきたことを基に、中央教育審議会の答申[1][2]や宇都宮大学のミッションの再定義、教育学部のディプロマポリシー、教育実習Ⅱのシラバスを参考にして、教育実習のねらいの再確認、再設定を行った。その結果、以下の①～⑤を教育実習のねらいとして附属小学校教員全体で共有し、教育実

| 観察記録 | | | |
|--|---|--|--|
| 月 日 () 年 組 校時 教科 () | | | |
| <p>板書内容</p> <p>※子どもが書いた場合は、それが分かるように記録する。</p> <p>※色分けや図表などの工夫が分かるように記録する。</p> <p>※体育などで板書がない場合は記録しなくてよい。</p> | | | |
| <p>時期</p> <p>○学習活動 - 子どもの様相 (発言・行動等)</p> <p>○教師の支援 (発問・資料・教材・動き等)</p> <p>◎考察 (効果)</p> | <p>記号例</p> <p>○ (～する。) → 学習活動</p> <p>○ (～することによって～できるようにする。)</p> <p>○ (～できるよ～にする。)</p> <p>◎ (～と考えられる。) → 考察</p> | <p>文例</p> <p>(～と思います。)</p> <p>(～をノートに書く。)</p> <p>様相</p> <p>支援</p> | |
| <p>学習活動・子どもの様相</p> <p>※子どもが何をしたら、子どもが何を言ったかを、具体的に記録する。</p> <p>※表情やつぶやき、作業の内容・様子などまで、詳しく記録する。</p> | | <p>教師の支援・考察</p> <p>※手立てと目的が分かるように記録する (～することによって～できるようにする)。</p> <p>※教師の支援に対する自分の考えを記録する。</p> | |

図2 授業観察記録用紙

習改革・指導の方向性として示した。

- ①小学校教師の仕事についての理解を深め、学生が達成感を得ることで小学校教育へのやりがいを感じ、教職志向を高められるようにする。
- ②教育実習生が自らの教師としての適性について考え、自分にとってこれから学ぶべきこと、これから伸ばしていきたいことを自覚できるようにする。
- ③学習指導要領や教科書などに表された目標や学習内容を理解し、大学で学んだ理論に基づいた指導計画の立案や指導方法の設定、教材の準備を行い、事における子どもとの対応を適切に行うことで、授業力の基礎を身に付けることができるようにする。
- ④給食指導、清掃指導、共遊などを通して子どもと関わることの大切さが分かり、児童理解への意欲と基礎的・基本的な資質・能力を高められるようにする。
- ⑤学習の質を最低限に確保し、子どもにとっても実りある教育実習となるようにする。

(2) 組織づくり

教育実習改革を広い視野で円滑に進めるため、教育実習生指導部に「授業実践・指導案チーム」「授業観察・記録チーム」「教生日誌・勤務チーム」「評価チーム」を作った。それぞれのチームが検討した改革案を教育実習生指導部全体会に提案し、全体会では提案された改革案の実効性について協議することで、改革の具体策を明らかにしていった。

4. 教育実習改革の実際

(1) 実践を重視した学習指導案と事前指導

指導案作成の時間を短縮し、発問、板書、教材な

| 科学習指導案 小案 | | |
|---------------------|----------------------|-----------------|
| 平成 年 月 日 () 第 校時 | 指導教員 | 検印 |
| 第 学年 組 指導者 | 検印 | |
| 1. 題目 | | |
| 2. 目標 | | |
| 3. 評価規準 (おおむね満足の様相) | | |
| (学習活動) | | |
| 4. 展開 | 学習活動 | 中心となる学習活動における支援 |
| 時間 (分) | 【内容・子どもの様相・あて・発問・指示】 | 【目標を達成するための具体策】 |
| | 1 | ○ |
| 5. 板書、場の設定等 | | |

図3 指導案書式 (教科用)

どの具体的な支援について吟味、計画する時間を確保するために、指導案の項目や内容と事前指導の見直しを図った。見直した指導案の書式を図3に示す。

7月の指導案講習会では教育実習期間中の授業計画と全授業時間分の指導資料を配布し、それらを基に実習生は担当授業第1時の指導案を作成した。残りの担当授業の指導案は、実習1日目までに作成してくるよう指示した。その際、教科書の指導書や各種資料、過去の指導案など、多様な情報を参考にすることを推奨した。実習中の事前指導は以下のスケジュールで行い、指導教員から支援の内容や方法を積極的に提案するようにした。

【授業3日前】指導案 (1案) の提出・検討

【授業2日前】教材研究 (事前指導は希望者のみ)

【授業前日】修正した指導案 (2案) の提出・検討

(2) 必要感が持てる授業観察と観察記録

実習2日目は附属小学校教員が行う授業を観察し記録するだけでなく、指導・支援補助として授業に参加しながら子どもの実態を把握する活動を設定した。3日目から13日目まで毎日1時間、附属小学校教員が行う授業を観察する時間を設定した。実習生が行う授業も含め、観察の観点を「教師の支援が子どもの学習にどう影響したか」とし、自分の授業に取り入れたいことを中心に記録した。

観察記録 (B1) の観察テーマは、授業者から聞いた授業の概要を参考にして、教育実習生指導部があらかじめ設定しておいた共通テーマから適切なテーマを実習生が選ぶことにした。実習生はテーマを意識しながら通常通りに授業観察と記録を行い、観察記録 (B1) としては、テーマに沿った部分考察と全体考察をまとめ、提出した。

(3) 課題解決を意識した反省会と教生日誌

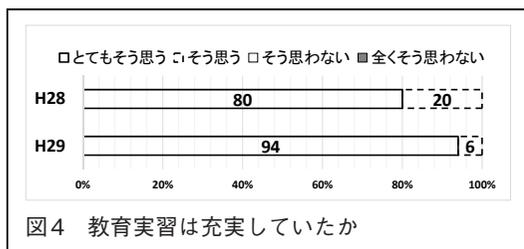
放課後に実施する学級ごとの反省会では、一日の振り返りと、教育実習生指導部や指導教員が設定したテーマに基づいた協議を行った。テーマは「発問の工夫」「板書計画」「児童指導」など、大学で学んだ理論と実際の子どもとの姿を関係付けられるようにした。「勤務上の配慮」もテーマとして取り上げ、社会人として身に付けるべき資質とは何か、実習生としてふさわしい姿とはどのような姿かということ、実習生自ら課題として捉えられるようにした。教生

日誌には、反省会で協議したことに対する考えと、自分の成長や今後の目標など記述するようにした。

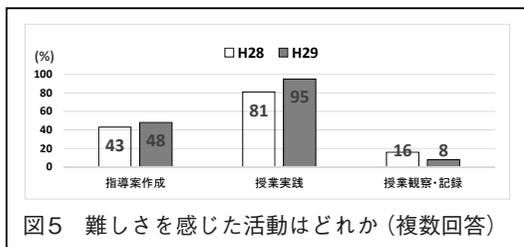
5. 教育実習改革の成果

教育実習最終日に、教育実践専門委員会が作成したアンケート調査を行っている。平成28年度（9月21日実施、83名回答）と平成29年度（9月22日実施、87名回答）の結果の抜粋から、教育実習改革の成果について考察する。

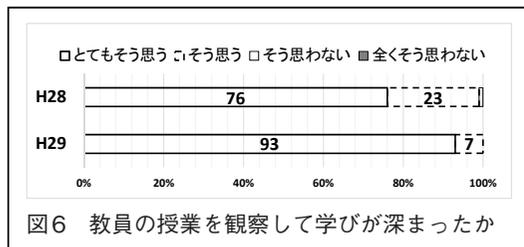
「教育実習は充実していたか」という設問に対する回答の割合を図4に示す。両年度とも実習生の100%が好意的な回答をしているが、「とてもそう思う」と答える割合が14ポイント増加した。



「難しさを感じた活動はどれか（複数回答）」という設問に対する回答の割合を図5に示す。指導案作成と授業実践については増加し、授業実践の増加幅が大きかった。授業観察・記録については半減した。

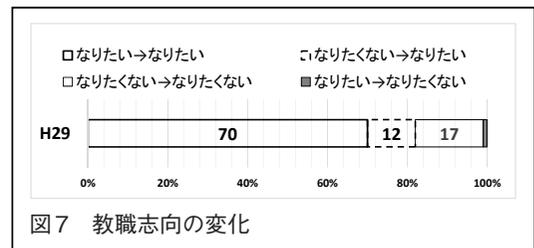


「教員の授業を観察して学びが深まったか」という設問に対する回答の割合を図6に示す。平成29年度は好意的な回答が100%で、「とてもそう思う」と答える割合が17ポイント増加した。



教職志向の変化について集計した結果を図7に示す。平成29年度からの設問のため比較はできないが、

教育実習をきっかけに教職を目指すようになった実習生が平成29年度は12%いたことが分かった。



これらの結果から、教育実習改革の成果として、以下のことが考えられる。

- ・自ら課題を設定し解決しようとする時間的、精神的な余裕を持てるようになり、教育実習に対する達成感が増し、教職志向が高まった。
- ・学習指導案や観察記録の簡略化、授業準備や教材研究の充実により、実習生自身が授業力の向上を意識して実習に取り組むことができた。
- ・附属小教員の授業の観察を多く設定したことで、実習時期や実習生各自の資質・能力に応じた学びを深めることができた。

6. 今後の教育実習改革

宇都宮大学教育学部では教育実習改革検討チームを立ち上げ、附属学校園と連携して教職科目の改革に取り組んでいる。それに伴い、現在の実習内容を整理したり新たな取り組みを始めたりすることも必要になるだろう。附属小学校の改革成果を、教育学部全体の実習改革にも生かしていきたい。

謝辞

附属小学校教育実習生指導部の先生方をはじめ教職員の皆様の厳しくも温かい実習生へのご指導に心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

参考資料

- [1] 今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）平成18年7月11日 中央教育審議会
- [2] これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）平成27年12月21日 中央教育審議会

平成29年10月31日 受理

**Reform of Teaching Practice at The Elementary School
Attached to the School of Education,
Utsunomiya University**

Kunihiko ASAKAWA* and Koji HAYASHIDA**

* School of Education, Utsunomiya University

** Elementary School Attached to the School of Education, Utsunomiya University